

# ミクロネシア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ミクロネシア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	1	1	15	0	0	0	1	2	110	2	3	125

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

1914年に第一次世界大戦が勃発すると、日本はドイツ領ミクロネシアを無血占領し、1920年にはヴェルサイユ条約によって旧独領ミクロネシアの支配を認められ、同地域は国際連盟が認定する日本の委任統治領となった。日本は、連盟脱退後も第二次世界大戦終了（1945年）まで同地域を南洋群島として統治していた。その間、日本政府は南洋群島小学校を設置し、8才以上の子どもには日本語教育を初等教育の一貫として行い、授業は48週間／年、6日間／週というスケジュールで行われていた。授業時間の半分は日本語、残り半分で算数、理科、その他の科目に当時はあてられていたと伝えられている。学齢期の児童の就学が義務化された1935年以降は就学率が上昇し、ポンペイ（首都）では、1937年頃までには子どもの約7割は公立小学校に通っていたと言われている。こうした歴史的背景があるため、当国には今でも生活の中で断片的な日本語は残っている（タイソー、ウンドーカイなど）が、全体的には日本語が子ども、孫の世代に受け継がれておらず、今となっ

ては、日本語が話せる人はほぼいないのが現状である。

1947年現ミクロネシア連邦を含む旧委任統治領は米国を施政権者とする国連信託統治地域となり、1979年自治政府の発足、1986年独立、米国との自由連合盟約（コンパクト）を締結した。以降、公用語は英語（米語）で、教育も米国式の英語教育である。

## 背景

あらゆる面で米国との結びつきが強いとはいえ、経済面では日本との関わりも強く、今後なお一層の関係強化も期待されていること、また歴史的背景から国民の約2割が日本人を祖先に持つと言われており、日本は身近な国という意識があることから、日本語や日本の文化に興味を持つ人も一定数存在する。

## 特徴

日本語は、公用語である英語以外で継続的に教育が行われている数少ない外国語である。しかしながら、日本語の実用性に対する学習者の意識が低い上、学習時間も短く到達レベルが初級前半を超えない現状では、教師による青少年の日本語への関心増進や日本文化紹介といった活動が必要となっている。

## 最新動向

ポンペイ州在住の日本語教師が帰国したためポンペイ州で日本語授業は行われておらず、チューク州の私立高校に派遣されている日本語教師の JICA 海外協力隊 1 名のみである。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

チューク州のザビエル高校（カトリックのイエズス会による運営）で JICA 海外協力隊による日本語授業が 1～2 年生は必修科目、3～4 年生は選択科目として受講できる。同校から指定校推薦として、毎年 1～2 名の生徒が上智大学に進学している。

### 高等教育

ミクロネシア短期大学（COM）の本校とポンペイ・キャンパスにて、人文科選択科目として、初級前半レベルの日本語の授業が開講されていたが、日本語教師の離職に伴い現在では日本語教育は実施されていない。ミクロネシア短期大学（COM）と連携し留学、研修などのプログラムを実施する日本の大学がある。例えば、上智大学、立命館大学、麗澤大学、テンプル大学日本キャンパス、東京都立大学、琉球大学、愛知江南短期大学など。

### 学校教育以外

日本語教育の実施は確認されていない。

## 3.教育制度と外国語教育

## 教育制度

### 教育制度

8-4 制。

小学校が 8 年間（6～14 歳）、高校が 4 年間（14～18 歳）となっている。

小学校の 8 年間は義務教育である。

なお、当国の高等教育機関は、短期大学が 1 校あるのみである。

### 教育行政

教育機関は各州の教育局が管轄している。 ミクロネシア連邦政府の教育省が国家レベルで管轄している。

## 言語事情

公用語は英語。

ただし、各島、離島などで各地の地方言語（コスラエ語、ポンペイ語、カピングマランギ語、ヌクロオ語、チューク語、ヤップ語、ユリシー語、ウォレアイ語など）が使われている。

## 外国語教育

ミクロネシア短期大学（COM）においては、中国語を学べる。ポンペイ州のアワー・レディー・オブ・マーシー高校では、課外授業として校外ボランティアによるスペイン語が週 1 回提供されており、高校生、短期大学生、及び社会人が受講している。

### 外国語の中での日本語の人気

以前日本語の授業の人気が高かったが、現在では、中国が留学生誘致に力を入れ奨学金制度を導入していることから、中国語の人気が高い。

### 大学入試での日本語の扱い

ミクロネシア短期大学（COM）入学の際、日本語の能力は合否とは関係しないものの、米国への大学編入時の査定の際、専攻によっては有利に働くこともある。

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

チューク州のザビエル高校で JICA 海外協力隊による日本語の授業が受講可能である。1～2 年生は全員必修、

3～4年生は選択科目としている。現在、国際交流基金（JF）が発行している無料オンラインテキスト『いろいろ - 生活の中の日本語』（入門、初級1）を使用している。日本文化紹介のために、折り紙、カルタ、アニメ鑑賞なども実施している。

## 高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

## 学校教育以外

日本語教育の実施は確認されていない。

## IT・視聴覚機材

特になし。

# 5.教師

## 資格要件

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

チューク州のザビエル高校で JICA 海外協力隊員による日本語の授業が実施されている。

### 高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

## 学校教育以外

日本語教育の実施は確認されていない。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師育成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

チューク州のザビエル高校で JICA 海外協力隊が日本語教師として活動しており、生徒に対して日本語の授業を実施している。

## 教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

## 現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

特になし。

### 最新動向

特になし

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

JF からの派遣は行われていない。

### 国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

#### 青年海外協力隊・海外協力隊

ザビエル高校 1名

#### その他からの派遣

（情報なし）

## 8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

## 9.評価・試験

### 評価・試験の種類

共通の評価基準や試験は確認されていない。

## 10.日本語教育略史

1920年～1950年頃	日本による統治時代、初等教育の一貫として南洋群島小学校にて日本語教育を行う。
1989年	JICA 青年海外協力隊（日本語教育）の派遣開始
1999年	ミクロネシア短期大学（COM）ポンペイ校観光科にて接客用の日本語指導開始
2012年	JICA 青年海外協力隊（日本語教育）の派遣中断
2015年	JICA 青年海外協力隊（日本語教育）の派遣再開
2019年	JICA 青年海外協力隊（日本語教育）の派遣の任期満了
2024年	JICA 海外協力隊（日本語教育）の派遣再開
2025年	ポンペイ州における日本語教育が全般的に終了

### 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp**

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）